

第7回 小学校再編に関する地域住民説明会（立江小学校区） 概要

- 日 時 : 令和元年10月30日(水) 19時開始
- 場 所 : 立江小学校体育館
- 参 加 者 : 19名
- 教育委員会 : 小野寺教育長 他9人
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会
2.教育長あいさつ
3.教育委員会職員紹介
4.配布資料確認
5.説 明
① 学校再編の目的
② 学校再編の具体的方針
③ 検討プロセス
④ 今後の進め方
6.質疑・応答(意見交換)
7.閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○学校再編の話だが、合同になるのはわかっているが、なぜ新開に行くのかがわからない。あそこは浸水地区で水はけも悪いと思う。前に聞いていたのは、立江中学校と坂野中学校の跡地に学校を持つてくと聞いていた。それで反対はしなかったが、新開に持つて行くのであれば反対。後、勇足の問題もどう考えているのかお聞かせいただきたい。

→ (回答)

4校案とした場合、理由が、通学支援を考えたときに新開小学校に再編をしていくのが最も徒歩で通学できる児童が多かった。

○浸水したときに新開は親も迎えに行けない。水に浸かるし、水はけも悪い。1週間くらい水が抜けないのだが考慮をしてくれているのか。子どもを通わせるのであれば正直危ない。

→ (回答)

北側の県道が浸水しているが、学校敷地に関しては浸水していない。

○あの周辺は浸水しているので行かないでというところが結構ある。スクールバスもいけなくなる。親の送迎となったときに、水がなくなるまで子どもを待つのか。それとも歩かせてくるのか。足が浸かりながら、バイパスまで上がらせるのか。それだったらバイパスに近いのはわかっているが、あそこはちょっと下がっているんで、そのあたりの考えが不足しているのではないかと思う。今、子どもの人数は減っている。距離もわかるが、なぜ新開に持つて行くのか。場所を変えるのであれば、立江と坂野の

中学校の場所は空いている。なぜ和田島と新開なのかがわからない。

→ (回答)

再編する2校について、集めてくる児童数を学校ごとにシミュレーションしたが、新開と和田島にするのが一番歩いて来る児童の数が最も多いことになる。

○スクールバスがあるので、親としては少しでも安全性の高いところに建ててほしい。通学はわかるのだが、安全なところを選んでほしい。保護者の意見として一つあげてほしい。

→ (回答)

排水のことに関しては、都市計画の課との相談になる。今回の案としては、浸水はあるが、学校自身は建設のときにかさ上げとか、南中学校のようにするなど、建設の際に対応はできると考えている。バイパスや県道もあるので、新開と和田島にさせていただこうと考えている。基本的な考え方としては、現在ある小学校・中学校とも浸水地区にある。どこの学校も基本は浸水する。浸水の深さの大小はあるが、建設の際にそれに対応できる構造にするなどして、安全ということで考えている。

○立江を新開にもっていても立江の住民に協力はしてもらえない。市あげての行事じゃないか。今回は北海道に行く。向こうの方に何と云えばいいのか。新開になるので、もう勇足とのことはなくなりますと言えるのか。以前、勇足との行事に小学校に協力してくれるところを聞いたが、どこもあげてくれなかった。だから立江がずっとしている。それを新開に持って行った時点で、協力はなくなる。

→ (回答)

再編後の勇足小学校との交流事業については、新しい小学校に引き継いでいく。

○でも引き継いではもらえない。立江に残すなら協力してくれるだろうが、新開まで出しゃばって協力はしてもらえない。今まで何十年も続いてきた勇足の交流をなくすのか。一度、なくそうとしたときに、勇足が立江がある限りしようと、そこまで言ってくれているので今回新開に持って行かれて、もうやめませんかとは言ってはいけない。

→ (回答)

それぞれの学校で引き継いでいくということで、地域住民の方と考えていく中でよりよい方向を検討していく。今ある小学校で引き継いでいくということで考えている。

○新しいところに持って行ってまで勇足とするとは思えない。今も少ない人数で迎えたりしている。新しいところに持って行ってご協力お願いできますかと言うことはできない。今まで何十年も続けてきたものを新開につぶされるのと同じ。

→ (回答)

それぞれの小学校の伝統や文化については新しい小学校で引き継いでいくということで、具体的な方法については今後の検討にはなるのだが、ご理解いただけたらと思う。

○南中学校ができ、北には小松島中学校といい分けだと感じていた。しかし、用地の買収などが非常に難しい。母校がなくなるのははっきり言ってさみしい。人も減り子どもも減って再編は仕方ないかもしれないが、さみしい思いをと思う。最近では大きな災害が出ている。千葉県でも大きな災害に見

舞われ、学校も浸水被害に遭った。市所有の土地が今の南中のところしかなく建てたのだが運動場も狭い。南中は残るかもしれないけれど、立江に架かる橋はみんなつぶれてしまう。子どもたちが安心して過ごせる学校作りを教育委員会も現場の先生も交えてもっと検討してくれないか。新開にするのであればこういう整備や対策をします、などのプロセスを明示し、環境を整えますとそういうのであればいい。やはり一番に安全。これが今、小松島はない。水没して地震が来たら市役所は一番につぶれる。和田島に大きな津波が来たら流されてしまう。そんなところも考えてみんなで知恵を出して、地元の間も教育委員会も考えてやってほしい。

○子どもが小学生だが、私の住んでいるところも大雨が来たら浸水する。家を建てるときに上げているが、車が出られない状態で、スクールバスが来てもそこまで行けない。ほかにも小松島の中に同じような地区があると思う。津波とか大水のときでも学校を少しでも高いところにして、コストがかかるのはわかっているが、そのことについては理解が得られると思う。そこに学校を再編する。新開もこども園はかさ上げしている。浸かるのがわかっているの。そういうことも考えて、安全性を先ほども皆さんが言っていたように考えてしていただきたいとも思うし、あとは先ほど言っていたように、勇足の文化とか、交流の文化も新しい地区の方々とどれだけ話し合いをして一緒に考えてくれるのか、該当の小学校の校長先生や教育委員会の先生方や保護者も集まってほしい。新開とか榎淵、坂野の方もどんな文化を持っているか知らない。それぞれの伝統や文化があるので、それを受け継いでいくためにも高校生や中学生もこういう説明を受けて考えることも大切ではないかと。新しい建物を早く建てましょうというよりも、伝統や文化を先生同士や保護者同士で話し合ってみんなで受け継いでいこうかというふうになったほうがいい。学校も古くなっているし、いつ大きな地震が来るかもしれないので一日も早くしたいのはわかる。でも、精神面も防災面も含めて一緒に考えていったほうが皆がわかるような、他の合併する学校の地域の方と一緒に聞くような説明会が大切なのは。伝統と新しい敷地はこうしたら大丈夫と、みんな安心がほしい。そういった点を踏まえての新しい説明方法を考えてもらえたらスムーズに進むのでは。

→ (回答)

昨年度初めて勇足小学校との交流会に参加させていただいた。地域の方がたくさん来られて、この会を準備するにあたってどれだけたくさんの時間を費やされたことか。子どもたちはすごくいい顔で、向こうの子どもたちも笑顔で立江の子どもたちもこの日をとても楽しみにしていたのだと強く感じた。勇足との交流を皆が大事にしているので、新しい学校でも何かの形でつなげていくのは非常に大事だと思う。それは再編する学校1校だけではなくて新開だったら新開の行事に対する思いがあるだろうし、地域にずっと住まわれている方が大事にされていることは必ずあると思う。新しく再編した学校でどのように受け継いでいくのか、それぞれの小学校で出し合い、全体に広げて話し合い、それを新しい学校の中にどのように取り入れていけばいいのか、このことについては専門部会を通じての検討課題になるかと思う。地域の方がずっと大事になさってきたものは何かの形で残していきたいと考えている。

→ (回答)

説明会の件でだが、昨年もこのような形でお話をさせていただいた。今回、まだ全ては終わってはいないのだが、今までのお話を聞く中で、12月中にアンケート調査をそれぞれの小学校区各年代ごとに予定にしている。そのあと、パブリックコメントとして住民の皆さんからご意見をいただく予定にしている。この実施計画を大きく変えなければならぬ結果であれば、また地域のほうにご説明させてい

ただくような流れを考えている。

○学校編成ありきで進めていると思うのだが、阿南市の大井小学校がなくなったので行ってみただが、町が失速している。全く町の状態を呈していない。町自体が死に体になっている。学校がなくなるということは地域の文化がなくなるということ。それよりも人口を増やすとか、子どもを増やすとか、そういう方法もあると思うのだが。そういう考えは全く資料に出ていない。立江小学校も雇用促進住宅があるときは80戸あり、立江小学校も人数が多かった。羽ノ浦の春日団地も住宅ができたなら人数も増えたので、そういう増やすような方法を考えてほしい。とにかく学校をなくす、少なくすることしか出ていないように思うのだが。そういう点について説明をお願いします。

→ (回答)

現在、市では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を行っており、人口については全国で減っている状況がある。その減っていくのを減っていかないようにする方策を考えている。現状としては人口が減っている流れをなかなか止めることができない状況である。各地区に企業の誘致であったり住宅の誘致であったり、教育委員会だけでは考えられないところで、市役所の中では第6次総合計画で考えてはいるが、特効薬がなく、いい方策が見つかっていないというのが現状である。